

# 論文内容要旨

西日本豪雨災害における子どもの食事と栄養：母親の  
困りごとに対する栄養士の支援活動の評価

主指導教員：中谷 久恵 教授  
(医系科学研究科 地域保健看護開発学)

副指導教員：川崎 裕美 教授  
(医系科学研究科 地域・学校看護開発学)

副指導教員：折山 早苗 教授  
(医系科学研究科 基礎看護開発学)

伊藤 夕賀子

(医歯薬保健学研究科 保健学専攻)

## 【緒言】

世界の先進国・発展途上国を問わず多くの国で自然災害が発生し、甚大な被害が生じている(Mike, 2005年)。過去30年間に20万人以上の人の命が奪われ、28億人以上の生活に支障をきたし、特に妊婦や子どもの健康に大きな影響が及んだとの報告がある(Lea, 2018年)。2011年東日本大震災の調査では、発災1か月後、53(79.1%)避難所で食料が不足し、乳児の食料不足が最も多く(Tsuboyama, 2014年)、食に関する情報不足やアレルギー対応食品が長期に渡り入手困難であったことが報告された(箕浦, 2012年)。2016年4月熊本地震では、ミルク、アレルギー除去食、離乳食等の不足に関する困りごとや子どもの肥満増加が報告された(濱田, 2023年)。しかし、これまでの研究では子どもの成長発達段階にフォーカスした報告は行われておらず、母親の困りごとであるニーズに対応した栄養士の支援活動も明らかにされていない。

そのため、本研究では2018年西日本豪雨災害で被災した母親を対象に成長発達段階が異なる子どもの食事と栄養について調査し、母親がどのような困りごとを抱えていたか実態を把握するとともに、被災地域の異なる職域に勤務する栄養士の支援活動の実態を明らかにした。その結果から、栄養士らの災害時支援活動のあり方を検討した。

## 【方法】

研究デザインは、半構造化面接法による質的記述的研究である。母親グループの調査対象者は、西日本豪雨災害で被災したA県内に居住する成長発達段階の異なる子どもの母親8名を選定した。栄養士グループの調査対象者は、同じ被災地域内の異なる職域に勤務する栄養士7名とした。対象ごとにフォーカスグループインタビューを実施し定性分析である質的記述的分析を行った。

確証性を高めるため定量分析である共起ネットワーク分析を加えトピックを読み取り、定性分析データと定量分析データを照合し比較検討した。さらに母親の困りごとと栄養士の支援活動の定性分析データを照合し比較検討した。

## 【結果】

発災初期の母親の困りごととして、妊婦へは【水や食料の支援】の不足、乳児の【哺乳瓶の消毒】、授乳婦の【主食中心の食事】、幼児の【アレルギー用食品の不足】、【発達障害児の食へのこだわり】、小・中学生の【食料の不足】の6カテゴリが抽出された。中長期には【断水時の食事づくり】【学校給食の中止】【道路遮断時の買い物】【アレルギー用食品の不足】の4カテゴリが抽出された。発災初期の栄養士の支援活動は、保健センター栄養士らによる【給食稼働の準備】、保育所栄養士らの【環境衛生を優先した初動活動】、NPO栄養士の【アレルギー用食品の不足の対応】の3カテゴリが抽出され、中長期には【JDA-DATの出動準備】、NPO栄養士の【アレルギー用食品不足の対応】【栄養相談】、給食センター栄養士と保育所栄養士の【給食の対応】、保健センター栄養士と小学校栄養教諭の【災害時の食事に関する教育活動】、小学校栄養教諭と保健所栄養士による【栄養士のための研修会の開催】、6カテゴリが抽出された。

共起ネットワーク分析した結果、発災初期の母親の困りごとは「小学校で子どもが使うお湯と

水」など 5 事象が、中長期は「水やアレルギーの情報」など 6 事象がトピックとして読み取れた。発災初期の栄養士の支援活動は「水や電気に関する活動」など 8 事象が、中長期は「災害と水に関する活動」など 5 事象がトピックとして読み取れた。母親の困りごと及び、栄養士の支援活動について、それぞれ定性分析データと定量分析データを照合し比較検討した結果、すべてのカテゴリが支持された。さらに、母親の困りごとと栄養士の支援活動の定性分析データを照合し比較検討した結果、「アレルギー用食品の不足」に対し「アレルギー用食品の不足の対応」、「給食の中止」に対し「給食の対応」がマッチングした。

### 【考察】

本研究の結果から母親の困りごとであるニーズに対して栄養士が行った支援活動は、「アレルギー対応」と「給食の対応」であることが明らかになった。今後の大規模災害に備えて、この 2 つの対応に着目した栄養士の支援活動が重要と示唆された。

定性分析した結果、母親の困りごとは、成長発達段階に係わらず水不足に起因するカテゴリが最も多いことが明らかになった。栄養士の支援活動は、各職域で子どもに向き合った支援活動を示すカテゴリは見られたが、連携した活動を示すカテゴリは見られなかった。今後大規模災害に備え、栄養士は地域の各職域の栄養士らの連携体制構築に向けて取り組むことが重要である。